



2013年1月 社長年頭所感

第一生命保険株式会社
社長 渡邊 光一郎

明けましておめでとうございます。

昨年は、当社本創業 百十周年の大きな節目の年でした。私たちは「百十周年事業」として「DSR経営の推進」、「新・生涯設計」、「5つの変革」に取り組み、また、生命保険の原点である「安心の絆」を作り・届け・広めるという生命保険本来の役割、私たちの使命を再確認しました。

さて、年頭の所感を端的に申し上げますと、

2013年は、盛衰の分水嶺にある日本全体が課題解決に向けて「熟慮」から「断行」のステージへと進んでいくと言われている。

第一生命グループも社会保障制度の一翼を担い、機関投資家として成長戦略に参画すべく、役職員すべてが課題解決に向け、みずからが理念・ビジョンを持って実行する「実践躬行（じっせんきゅうこう）※」のステージへと進んでいこう。

というものです。

「課題先進国」と呼ばれてきた日本は、人口減少・高齢化等の影響を跳ねのけて「課題解決先進国」と呼ばれる国に成長できるかどうかの、まさに盛衰の分水嶺に立たされています。日本が持続的な成長を成し遂げるには、税・財政・社会保障制度の一体改革、多様な人財の活躍、アジア太平洋地域の活力の取込みといった諸課題を一丸となって解決しなければなりません。これまで、諸課題に向き合う「熟慮」はこれまでに十分なされました。今年は「熟慮」から「断行」するステージへと進んでいく年になると言われています。

第一生命グループは、社会保障制度の一翼を担い、また、機関投資家として成長戦略に参画する存在であり、日本全体と同様に盛衰の分水嶺にあります。経営品質・生産力・効率性の向上、アジア太平洋地域での成長、成長産業への資金供給とリスク管理の両立、人財の育成、ダイバーシティの推進等、いずれの課題においても、これまでの取組みの中で、皆さんそれぞれが未来に向かって目指すべき姿を既に実感しているはずです。役職員が一丸となって、「お客さま第一主義」という経営理念、そして「いちばん、人を考える会社になる。」というグループビジョンのとおり実践し、目指すべき姿の実現に向けて、みずから行動する**実践躬行（じっせんきゅうこう）※**の年にしていきたいと思います。

今年一年の皆さんのご活躍を心よりお祈りして新年のご挨拶といたします。

※「実践」とは理念・ビジョン・理論をそのとおりに行うこと。「躬行」とは躬みずから実行すること。

以上